

朝日新聞 2015/5/20

第3種郵便物認可

朝を
ひらく

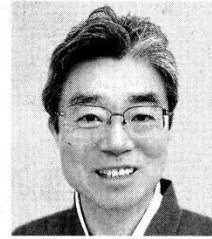
人間はそのスケールの大小にかかわらず、根底には嫉妬心をもっている。この妬みのエネルギーが負にはたらくか、プラスに向かうか、これで人生が大きく左右される。嫉妬を制するものは、人生を制す、と言えるかもしれない。

鏡よ鏡、この世で一番美しい人はだれ？ いつも答えは「貴女です」と言われてきた継母。ある日鏡が、「白雪姫が美しい」と言ったとたんに嫉妬心が湧き上がる。強烈な嫉妬心が、毒リンゴで白雪姫を殺そうとする。

嫉妬の末、最愛の新妻デズデ

嫉妬心の影と光

永田 円了
真国寺住職



モーナを亡き者にしたオセロの悲劇。告げ口をした旗手イアーゴも、オセロの幸せに嫉妬していた。17世紀シェークスピアの4大悲劇の一つである。

日常ささいなことだからと許している罪、七つの大罪。暴食、高慢、怠惰、色欲、強欲、憤怒、そして「妬み」。1995年米映画「セブン」では、嫉妬が罪として捉えられている。

自由を説くアメリカが、自分

たちより自由な人間を見ると嫉妬し、彼らの社会から排除しようとする。69年米映画「イージー・ライダー」では、人間のもつ嫉妬心の本質を浮き彫りにしている。

一方この妬みがバネになり、三菱グループの創始者にまで出世した岩崎弥太郎。坂本龍馬にすさまじい嫉妬心をもっていた。「おまんと一緒にあったら、自分はなんちゅうら、こまら、つまらん人間に見えたがぞ」「眩しすぎる光には、腹がたつ」と本心を語る弥太郎（「龍馬伝」より）。しかし弥太郎は龍馬の足を引っ張ることはしなかった。代わりにライバル心を燃やし、出世街道を走った。

美空ひばりに嫉妬した作詞家・阿久悠。中学時代の遠泳大会で思った。もしここで溺れて死んだら、新聞は「少年水死」の4文字で終わるだろう。でももし美空ひばりだったら、少女水死の4文字ではすまないだろう。同年齢の美空ひばりに人知れず感じていた嫉妬心。この嫉妬心が今の自分になるまでの、全ての始まりだったと語る。

最後に私のこと。授業参観の日が一番つらかった。いつも黒い法衣と丸坊主に茶人帽で学校へ来る父、どうして皆と同じ父親でないのか。当時の幼なころは、普通の父親をもつ同級生に嫉妬した。

父の跡を継いで35年、今も有髪の禅寺住職で居つづけているのも、もしかしたらこの幼児期の嫉妬心が原因なのかもしれない。嫉妬の力、恐るべし！

制すれば人生も制す